

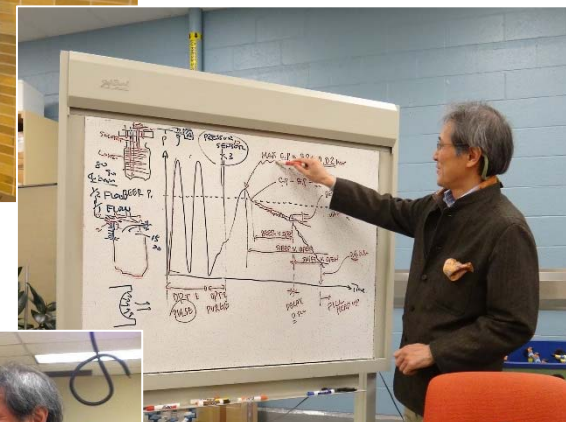
# ミラー醸造所を見学@アメリカのミルウォーキー 2011.12



●かつて「札幌・ミュンヘン・ミルウォーキー」というキャッチコピーがありました。そのミルウォーキーは、全米2位のビール、「ミラー」の本拠地。野球ファンならご存知の大リーグのチーム名も「ブルワーズ」=醸造者！

●2008年からは、SAB MillerとMolson Coorsが合併会社を設立し、「ミラー・クアーズ」社となっています。

●そのミラー・クアーズ社の研究所(Technical Center)で、当社のラボ用ビール缶詰機「Beer Radix」が採用され、4人のチームで設置・試運転に行きました。当社の「BR」シリーズが海外で採用されるのは、アイルランドのギネスビール研究所に次いで2社目。もちろん、国内では大手ビール各社の研究所でご採用いただいています。



# ミラー醸造所を見学@アメリカのミルウォーキー 2011.12



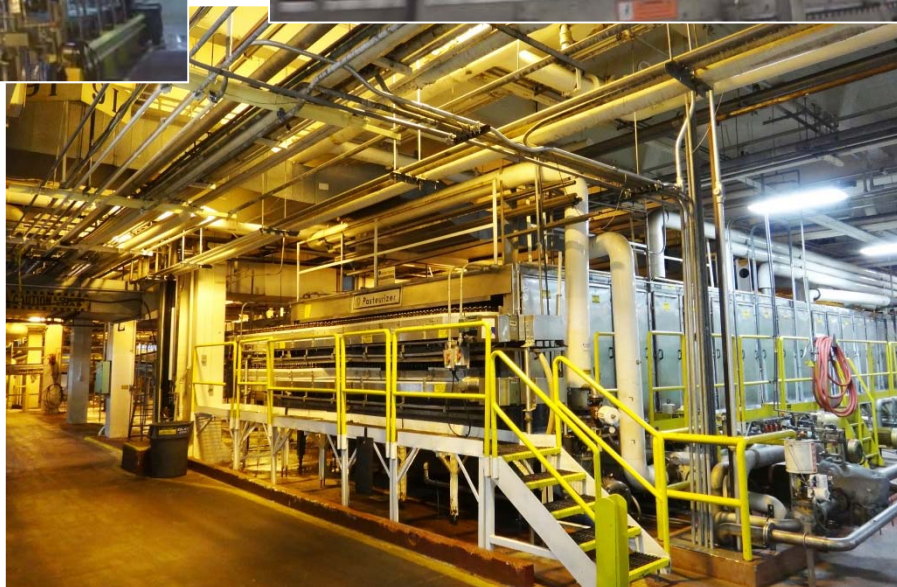
- 納入機の試運転に時間がかかり、工場見学は最終日(帰国前日)の夜中。夜勤の時間帯に、ミラーの工場を見学した人は珍しいのではないのでしょうか！
- 1894年に建てられたミラー醸造所の内部を見せてもらいましたが、古い建物・設備をそのまま活かしているのに驚きました。
- 銀色の輝く独特の形状のブルーケトルが印象的。590BLSが6基。銅製の釜はロイターで、735BLS。



# ミラー醸造所を見学@アメリカのミルウォーキー 2011.12



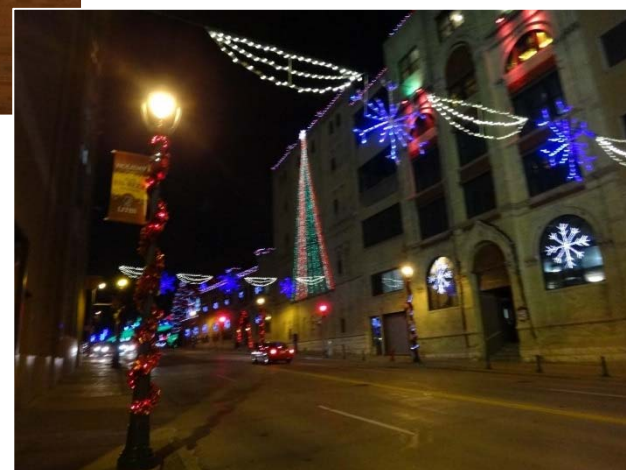
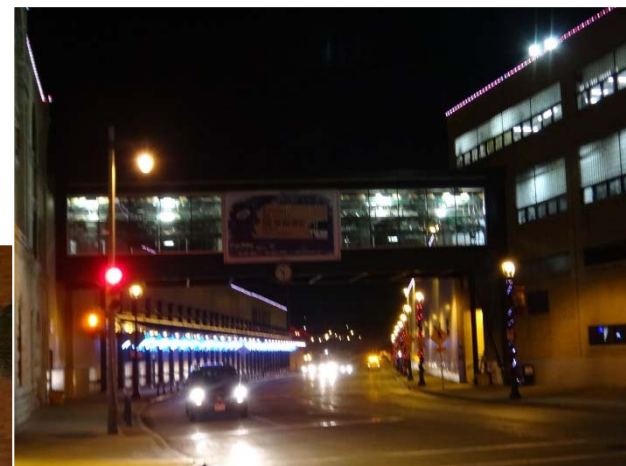
- SAB MillerとMolson Coorsの合併は、アメリカの2位と3位(世界の2位と6位)の合併。独禁法に触れそうですが、1位のバドワイザーが圧倒的に大きいので許されたのでしょう。因みにSAB Millerは、2007年時点では世界1位でしたが、いまは世界6位。ビール業界の再編ドミノ・合従連衡は、余りにめまぐるしい。。
- ミラークアーズの2011年の生産量は766万KL。キリンとアサヒがそれぞれ200万KL強。日本全体の生産量、550万KLより多い。
- びん詰めラインは24時間稼働、分速1,500本くらい。らせん状のものは、びんラインのバッファ。右下は巨大トンネルパストライザー。



# ミラー醸造所を見学@アメリカのミルウォーキー 2011.12



- 100年ほど前とおぼしきイラスト。ドイツ人のFrederick Millerが、1855年に作ったビール会社。Beer Radix設置場所の裏扉を開けると列車の引込み線があったが、古いイラストにすでに引込み線が見える。イラストの建物の一部(高い建物など)は今も現役で使用される。
- 工場は一般道路を超えて複数のブロックに存在する。2階の高さで公道を跨ぐ搬送ラインがある。
- ちょうどクリスマスシーズンなので道には飾り付けがあったが、夜なので車どおりも少ない。このとき、零下5°Cくらい。ミルウォーキーの冬は、零下20°Cになる事もあるそう。



# ミラー醸造所を見学@アメリカのミルウォーキー 2011.12



●研究史の一角に飾ってあった、缶の歴史。ネックドインしていない缶、栓抜き付きの缶、SOTでないタブなど、半世紀の進歩。資料では見た事があったが、「ボトル缶」(左の写真)の実物を見るのは初めて。

